

◆5番（白石資隆議員） 議席番号5番、白石資隆でございます。ただいま議長の許可をいただきましたので、市政一般個人質問をさせていただきます。

まず初めに、平成22年度予算案について質問いたします。私は議員になって以来、何度も財政について次の時代に負担を残さないよう繰り返し述べてきました。何度も言っておりますので、執行部も私がどういう考えでいるかは知っているはずですが、今回の予算案を見ると、大久保市長だからできる取り組みとして、私も評価できる部分が随分ありますが、一方では、私が以前から何度も主張していることが余り反映されておらず、不満に思っております。私は今まで貯金である基金を計画的にもっと積み立てること、将来社会保障費が激増し、今後現役世代の負担がふえるのだから、今から歳出をもっと抑えて将来に備えること、毎年借金の残高をもっと減らすこと、投資効果のない事業はやめ、人材育成に金を回すことなど、何度も繰り返し主張してきました。

私も議員になって3年近くがたちますが、執行部は我々議員の主張を余り実行しないということがよくわかりました。形式では議会と行政は二元代表制で対等なはずですが、どう見ても議会は軽視されております。議会は執行部提案に対し、毎回必ず賛成多数で可決するため、執行部からすれば、どうせ議会は賛成するから、各議員の一般質問や各常任委員会での意見などは余り重視する必要がないと思っております。しかし、私は行政の追認機関ではありませんので、ただ黙って賛成するということはしません。ご承知お願いいたします。

我々議員は多くの市民を代表して議会で意見を言っているということを、市長を初め執行部の皆さんはもっとよく考えてほしい。少なくとも私は何度も財政のことを主張してきました。これを予算に反映しないのは、執行部が多くの財政を心配する良識ある市民の意見を聞くつもりはないということ、また我々これからの小山を担う若い世代の意見を聞く気はないということですので、市民の皆さんには今後そのように報告させていただきます。

22年度予算案を単年度で見ると、市民税や法人税などの市税が16億円以上減っておりますので、財政運営が苦しいように感じますが、一方で、国からの自由に使える地方交付税等が12億円程度ふえておりますので、実質的にはマイナスは4億円程度であり、大した影響はありません。不景気の打撃を受けた企業や現役サラリーマン、自営業者などと比べれば、小山市の22年度予算は大して苦しくありません。また、22年度予算案の歳入が減った原因として、繰入金が8億円以上減ったこと、また、繰越金が7億円減ったことが上げられますが、この原因は1年前の予算編成で税収予測を甘く見過ぎたからであります。私は昨年の予算議会の時点で見込みが甘いということを追及し、予算に賛同しませんでした。しかし、執行部は甘い税収予測のまま予算を執行したため、結果、金が足りなくなり、財政調整基金からの繰入金をふやしたため、今年度予算の繰入金が多くなり、逆に市民の貯金である基金が億単位で減りました。また、今年度は補正予算を組む際に金が足りず、繰越金を多く崩したため、逆に22年度予算の繰越金が大きく減りました。

つまり、小山市の予算編成や事業計画は、先行きに対する見込みが甘過ぎるのです。私はそのことを昨年から言っておりました。また、予算が苦しいと言いますが、昨年には国から経済対策ということで31億円もの補助金がつき、小山市が要望する事業が予定以上に進められております。また、22年度予算でも、経済対策等で県の補助金が億単位で余計についております。私はリーマンショックのすぐ後、この後の財政は相当厳しくなり、改革のチャンスと思っておりましたが、国が金もないのに多額の借金をして、想定外に地方に金をばらまいたために、予想以上の金が地方に分配され、地方は思っていたほど厳しくありません。ですので、小山市の22年度予算において億単位の基金を積み立てたり、もっと借金を減らす余裕は確実にあるわけです。

22年度予算案においても、今まで同様に箱物整備が並んでおります。時代は箱物な

どのハードよりもソフト面の充実を求めているのに、今の小山市政は時代の流れに反して、いまだにハードの整備で経済がよくなると思っているようなのでがっかりであります。特に 22 年度予算から市民病院の移転新築に向けてのコンサル料などが発生する計画ですが、病院のやるべき改革はまだまだできておらず、またどういう病院にするかの理念と構想も定まっていない。それなのに立地や建設ありきで箱づくりに懸命になっているのは本末転倒です。しかも、国の補助金、数億円程度の金に飛びついて計画を前倒しするなど疑問で仕方がありません。

22 年度予算案は、単年度で見ると税収が若干減り、一方では大型事業の予算がふえた分、市民生活に直接かかわる細かい事業の予算が削られております。22 年度予算はどこを削り、どこをふやしたのか、どのような特徴があるのか、市民の皆さんがわかるようにご答弁お願いいたします。

次に、国際交流と経済交流について質問いたします。小山市は姉妹都市であるオーストラリアのケアンズ市と中国の紹興市との交流のために、22 年度予算でも 1,000 万円以上組んでおります。市民の税金で中学、高校生の交流などもしているわけですが、今の交流程度ならば税金を使わずに民間でもできます。そうした交流に 1,000 万円もの金を使うのならば、視点を変えて経済交流をしてもらえませんか。これは私の提案ですが、今度特に中国の紹興市に行く際には、高校生ではなく、経済人を連れて行ってください。

どういう理由かという、皆さんご承知のように、中国を初めとした新興国では急激に経済が拡大し、国民の所得もふえ、日本人が経済進出する可能性が十分あるため、小山の経済成長のためにも、小山から企業も進出すべきだと思うからです。農業でいえば、小山の米やイチゴやカンピョウなどが中国で売れるように販路開拓をする。また公共工事であれば、日本の技術を売りに中国で水道工事などのインフラ整備に参入する。経済でいえば、例えば日本の高度な技術で海外で家を建てる試みをするなど、可能性は幾らでもあります。今後少子高齢化で国内の内需は減る一方ですので、仕事の奪い合いをするのではなく、視点を変えて海外に目を向けてほしいと思いますが、どう思いますか。

以上で、壇上からの質問を終わります。

◎松本勝企画財政部長 ご質問のうち、1、平成 22 年度予算についてお答えをいたします。

初めに予算編成方針であります。歳入の根幹をなす個人、法人市民税の落ち込みにより、市税の減収及び各種交付金の減収など、非常に厳しい財政状況にあるものの、人件費、公債費の縮減など、経常経費の削減による歳出構造の改革を進めるとともに、景気、地域経済の活性化及び雇用対策及び子育て支援、少子化対策、高齢者・障がい者福祉、社会保障、医療の充実並びに「エコシティおやま」、緑の分権改革推進の 3 本柱を重点項目として予算といたしました。この結果、平成 20 年度予算は前年度比 3.8%、19 億 6,000 万円増の 536 億 6,000 万円となったところであります。

この予算総額には、国が新たに創設した子ども手当 31 億 8,000 万円と新規に計上した都市開発株式会社への単年度貸付金 6 億 8,000 万円が含まれておまして、それらを差し引きますと、前年度に比べ 19 億円、3.7%減、総額 498 億円の実質緊縮型予算となるものであります。このうち自主財源は前年度比で 29 億円減少の 340 億円と見込んでおり、歳出削減のため第 1 に、直接事業に携わる職員こそが事業の内容を熟知していることから、各部の幹事課長による事業仕分けプロジェクトを昨年 10 月 5 日に設置し、総合計画実施計画に計上の 1,000 万円以上の 144 事業及び補助金について事業仕分けを実施いたしました。

第 2 に、最も事業を熟知している担当者が、自分の担当する事業を査定するのが最

も効率的な事業仕分けになるとの考えから、全職員による私の担当業務経費削減提案を実施し、90%の職員から提案を得、予算編成に反映させたところでございます。このことから、道路改良事業や区画整理事業の公共管理者負担金などにおいて、不要不急なものについては23年度以降に先送りするとともに、納税組合補助金の廃止、インターネットの発展による必要性が低くなった官庁速報の購読廃止、行政評価システム事業における外部委託から外部評価委員による評価に変更することによる事業費の削減、小山市市民病院内にある小山地区夜間休日急患センターの充実により、医師会に委託を行っていた小児救急医療対策事業の廃止など、総額2億9,000万円の削減を図ったところであります。また、自主財源の減収を補うため、国、県補助事業を積極的に導入をし、国庫支出金は前年度比25億円増の70億円、県支出金は9億4,000万円増の35億7,000万円のほか、国の制度による全額交付税に算定される臨時財政対策債2億5,000万円の増の13億6,000万円を計上いたしました。

予算編成に当たりましては、財政調整基金を取り崩さないことを前提とし、市債残高につきましても、市債管理計画に基づき、将来の子供たちにツケを残さないよう市債残高を減少させ、財政指標にも留意した編成を行ったところであり、財政調整基金、市債管理基金の平成20年度当初現在高は、それぞれ17億7,800万円、2億6,400万円、基金全体の現在高は57億8,500万円となります。市債残高につきましても、市債管理計画に基づき、平成22年度当初予算の市債残高は全会計で966億円、平成21年度当初予算に比べ1億3,000万円減少となったところであり、平成20年度から平成25年度までの全会計の総額で35億円の削減を前提に、確実に減少させております。

以上、答弁申し上げますが、よろしくお願いを申し上げます。

◎渡辺一郎経済部長 ご質問の2、国際交流と経済交流についてお答え申し上げます。

まず、経済交流のうち農業分野に関するものとしましては、本県では社団法人とちぎ農産物マーケティング協会が事業主体となり、生産農家やJA、全農、企業等と連携し、平成16年度から栃木ブランド農産物輸出促進事業が実施されているところでございます。本事業は、県産農産物の海外販路の拡大とブランド力向上を図る目的で、海外での販売促進や海外見本市への参加、展示商談会の開催等を行っているもので、この一環として、平成19年度以降対米輸出向けに本県産和牛242頭が出荷され、そのうちJAおやま管内から全体の39%を占める95頭が出荷されており、本県産和牛対米輸出額は平成19、20年度の2カ年で5,641万円となっております。また、道の駅思川に出店しておる市内の漬物業者も、韓国や香港、台湾等への輸出も行っているところでございます。

こうした取り組みの成果により、本県や本市の農産物は海外でも高い評価を受けており、それが農家の生産意欲向上にもつながっていることから、本市といたしましても、社団法人とちぎ農産物マーケティング協会と連携を図り、JAや関連企業等に働きかけ、市内の農産物の海外での新たな販路開拓、拡大に関する支援策について研究してまいります。

次に、市内企業が海外に進出した場合の企業への支援についてであります。既に市内中小企業に対し、新製品新技術研究開発事業補助金、自社製品販路開拓事業助成金等により支援を行っているところであり、まず第一に市内産業を空洞化せず、国内において輸出により外貨を稼ぐ方策を支援することが重要であると考えているところでございます。その上で市内企業が海外に出店、出品する場合は、これらの制度で該当するものがあれば積極的に利用を促進し、支援してまいりたいと考えているところでございます。

以上、答弁申し上げますが、よろしくお願いを申し上げます。

◆5番（白石資隆議員） ご答弁ありがとうございました。では、再質問いたします。

まず、予算についてですが、執行部は緊縮予算だと強調し、それを理由に市民生活にかかわる細かい予算をいろいろ削っているわけですが、一方では、大型事業の予算はしっかり組んでおります。本当に予算が苦しいのならば、大型事業を行う金も投資的経費をふやすお金もありません。小山市の予算の傾向を見ると、目の行き届かない本当に困っている場所の予算が削られたり、予算が行っていないかたりします。一方で、声を大きく市長に要望した予算や国の補助金事業は、必要性が薄くても予算化する傾向があります。

私は執行部の何倍も市民の皆さんと話をし、現状のいろいろな人の声を聞いておりますので、予算づけが偏っていると常々感じております。また、多くの市役所職員が目線が市民よりも最近市長に向き過ぎだと思えます。市民のための政治なので、職員は市長の顔色を見ながら、言われたように仕事をするのではなくて、もっと市民の目線に立って仕事をしてください。今回の予算、少し偏っていると執行部は思いませんか。

◎松本勝企画財政部長 白石議員の再質問にお答えを申し上げます。

このたびの予算につきまして、大型事業、それと国の補助事業等は予算化するけれども、市民の目線に立った細かい事業が削られているということでもありますけれども、そういうことは全くございませんので、再認識をよろしくお願いいたします。国の補助事業は当然昨年、今年度ですから 21 年度で言えば、公共投資臨時交付金とか、国の施策に合わせた形でどうしても地方はやらざるを得ない、そういう事業をやれば当然国から応分のいわゆる補助金、交付金が参ります。市の単独事業でいきますと、これは 100%うちで出すわけでありますから、なるべく国、県のいわゆる補助金、交付金を使って、要は市民サービスを実現していくと。時の政府も無駄な事業はやっておりませんので、ご認識をよろしくお願いいたします。

同時に、21 年度補正で組んでおりますけれども、細かな事業といたしまして、1 億 7,000 万円ほど組んでございます。国から 1 億 4,000 万円ほど補助金は来ておりますので、これは補助事業として今回の 2 次の補正で組んでございますので、決して市民の目線から外れた事業はやっておりませんので、よろしくご認識をお願いいたします。

以上であります。

◆5番（白石資隆議員） 執行部は市民の人が本当に困っていることを余り知らないと思います。例えば市政懇談会やいろいろな懇話会や検討会など各種委員会がありまして、そこでいろいろ意見を聞いているとは思いますが、こういったところに出席する方々というのは、地域や団体の役職についている方であり、市民のほんの一部の人です。また、こうした場で執行部が市民と話す内容というのは、あらかじめ決まった内容であって、話が限定されておりますので、本当にひざ詰めした話というのは余りできないと思います。私は執行部がもう少し本当の市民が、多くの市民がなかなか言えない本音というのを知る努力をしてほしいと思います。執行部の皆さんは仕事の的にも時間的にも市民と接触して本音を聞くのは難しいと思いますので、こういった場合には我々議員が日ごろ市民と接しておりますので、そういった意見をもっと尊重していただきたいと思います。

これは予算の質問ですので、借金と基金について聞きます。まず、借金残高は特別会計を含め幾らでしょうか。21 年度当初見込み、21 年度決算見込み、そして 22 年度当初見込みで幾らかお答えをお願いします。

また、基金については、もっと積み立てるよう前議会の質問でいたしましたが、私の質問と市長の答弁がかみ合いませんでしたので、再質問いたします。私は基金をもっと積み立てるべき理由として、今のペースで施設建てかえをすると、今後 10 年で小中学校の建てかえだけで 250 億円から 300 億円かかり、ここに市のもろもろの施設の建てかえを加え、さらに新しい大型施設を含めると 600 億円以上かかるからだと言いました。その際の市長の答弁は、小山市は投資的経費が毎年 80 億円あり、10 年で 800 億円あるから大丈夫だとの答弁でした。しかし、投資的経費の中で大型施設の建設等は、22 年度の予算案でも 15 億円程度、多くても 20 億円程度しかなく、投資的経費の残りのほとんどは身近な道路整備やその他の事業で使っております。すると施設建てかえに使える予算は 10 年で 150 億円から、多くても 200 億円程度しかありません。今後 600 億円以上かかると思われるのに全然お金が足りません。どうするつもりでしょうか。市長を初め執行部の皆さんはこのときには退職しているから、後のことは関係ないのでしょうか、余裕がある今から基金を計画的に積むべきではないのですか。

◎大久保寿夫市長 白石議員の再質問にお答えいたします。

先ほど私の名前も出てきましたので、よく申しておきますけれども、あなたより私のほうが市民の皆様にはよく会い、そしてよく意見を聞いていると私は考えております。また、市政懇談会におきましても切実なる市民の皆様の要望を自治会長等が勘案して、そして提出されているものでございますので、あなたのおっしゃるように決してそういう要望ではございません。ぜひ議員にはご理解いただきたいと思えます。

また、私どものところには、市長就任以来市長へのメールということで、市民の皆様から数々のご意見、ご要望もいただいております、そういう面にも即座にこたえて、そして回答しているところでございます。そういう面でぜひもう少し目を大きく開いて、大局をもってご意見、ご要望を賜りたいと、このように思いますので、よろしく願います。

そのほかのことにつきましては、関係部長が回答いたしますので、よろしく願います。

◎松本勝企画財政部長 白石議員の再質問にお答えいたします。

まず、市債残高でございますけれども、市全体の合計でございますけれども、まず平成 20 年度の、これは決算高であります、970 億 1,000 万円。それから 21 年度でありますけれども、これは見込みでございます、964 億 7,000 万円。同じく見込みでございます、平成 22 年度、956 億 2,000 万円でございます。

それから、基金につきましては、3 年間の当初予算、予算では取り崩しはしてございません。そして、22 年度現在高見込みでございますけれども、まず財政調整基金であります 17 億 7,800 万円、これは先ほど答弁したと思うのですけれども、それと市債管理基金であります、2 億 6,455 万 6,000 円でありまして、財政調整基金とか市債残高基金、それから庁舎建設基金、体育館建設基金等の合計は 36 億 8,035 万 2,000 円でございます。その他の基金が 21 億 7,738 万 6,000 円ございまして、合わせまして 57 億 8,573 万 8,000 円でございます。

以上であります。

◆5 番（白石資隆議員） まず、市政懇談会とかありますが、そこでは時間がかなり限られております。ですので、市民の皆さんが本当に伝えたいことというのは、そこだけ

では時間的に不可能であります。ですのでもう少し皆さんの意見を聞く努力をしてください。

また、私は基金が減ったとかではなくて、ふやすべきと言っております。私は何度も以前から主張しておりますが、将来の財政事情は今とは比較にならないくらい悪化します。今社会資本整備によって、今我々が受けている便利さというのは、自分たちが納めた税金では足りないのです、この時代の人が勝手に借金して次の時代に負担だけを押つけて、今の人が身の丈以上の恩恵を受けております。身の丈以上の恩恵を受けたいのならば、恩恵を受けている世代がもっと負担すべきであるか、負担をしたくないのならば便利さ追求は我慢すべきです。

総務省がつくった計算式ですと、小山市の資産は 2,997 億円あり、そのうち 1,141 億円が借金として残っている状態です。40%が借金としてまだ返済できていないのに、早くも資産の建てかえが始まり出しております。こうした財政事情を一般家庭でしますと、例えば親が若いころ 2,500 万円の家を 40 年ローンで建てたとします。しかし、40 年たち、家が古くなり建てかえる時期になったのに、1,500 万円しか返済できておらず、1,000 万円が借金で残っております。その借金は全部子供が返済しなければなりません。そのような状態なのに、前の古い家を壊し、新しい家を建てようとしています。しかも子供に許可をとらずに、子供が同居するという理由で全額子供のローンにし、家の構造も親が全部計画しております。子供はおとなしいので黙っているだけです。これが今の小山市の状態です。自分の家だったらこういうことをしますか、小山市の金だから関係ないのでしょうか。私は余りにも今までの政治が無責任過ぎると思います。今までの分まで全部負担しなければならないのは我々次の世代なのです。そのことはよく考えてほしい。

今小山市は少しずつ借金を減らしていると言いますが、減らすのは常識であり、減らさなかった昔の市政や国や県やほかの自治体がおかしいだけです。施設や道路や上下水道などの社会資本整備は、大体 40 年くらいで建てかえや交換をしますのです、小山市の 970 億円の借金を 40 年で割ると、毎年 24 億円以上返済しないと、そのツケは全部将来に回るわけです。今くらいの努力の財政運営で満足していたら、時間がたつにつれて財政は厳しくなり、将来いつの日か破綻すると苦言と警告をしておきます。

次に、経済交流についてですが、私が提案しているのは、県とかいろいろな団体がやっていることに便乗するのではなくて、また補助金を出したりするというのではなくて、小山の企業が海外の仕事をとるために小山市が仲介をしてほしいのです。ことし姉妹都市交流で紹興市に行く際に小山の経済人を連れていき、さらに中国側にも交渉して、役所のインフラ整備とか農業の担当者や経済人を集めてもらって、小山市側の経済人と話をする機会をつくってほしいのです。多分そういうことを市長は以前に中国に行かれたのでわかると思います。なかなかこういうのは民間企業ではできなく、行政だからできることだと思います。こういう官民協働の経済交流は日本では非常におくれています。ですが、これから経済が国内は失速しますので、ぜひとも拡大成長できるように、海外との交流を深めてもらいたいと思います。

ちょっと時間がないので、返答できればと思います。

◎大久保寿夫市長 白石議員の再質問にお答えいたします。

白石議員もご承知のとおり、小山市は昨年紹興市とも姉妹都市の関係になりましたが、これは何もしなくてなったわけではないのです。平成 19 年には農業の関係の皆様が紹興市に参りまして、あちらの農業関係の皆様と懇談をいたしました。また、その 2 年前の平成 17 年だったと思いますが、これには小山市の商工業の関係の方が紹興市に参りまして、紹興市とそういう関係の交流を持ったところでございます。このように既

に議員の提案の関係については実施しております、そのような中で現在この姉妹都市交流が締結できたわけでございます。なお、今後ともこれらの関係につきましては、議員のおっしゃるような形につきましても、今後検討して実施していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

以上です。